

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1091200020		
法人名	医療法人社団三思会		
事業所名	グループホームクララ笠懸		
所在地	群馬県みどり市笠懸町西鹿田 634-5		
自己評価作成日	平成26年1月2日	評価結果市町村受理日	平成25年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームクララ笠懸は、昨年の4月に開所して、3年目を迎えるところです。施設の周りを散歩するとたくさんの自然を感じることができます。今年は、毎月の行事に工夫をし計画を立て、利用者に楽しんで頂けたと思います。外食・食事会・ボランティアを迎えての余興など、外部の方とも関わることが出来ました。時には、利用者と一緒に買い物に行き、季節の花を買い植えたりと、職員と利用者が一緒に楽しめた1年になりました。地域の夏祭りや神社のお祭りに参加して顔見知りの方とお話ができたりと地域との関わりが持たことで利用者の張り合いにも繋がりました。これからも地域との関わりを大切にしていきたいと思っています。毎日が同じ生活の中で、楽しいと思えるような生活を考え工夫し職員同士話し合いを持ち協力していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から 様々な取り組みによって、地域住民に事業所を理解してもらえるよう努力した結果、お祭りやホームの行事への参加や、運営推進会議で意見を出してもらえる間柄になった。事業所から提案した認知症に関する講演も近隣の公民館で開催され、継続して講演を依頼されるといった成果があり、円滑な交流ができています。介護計画の実践では、介護計画書の詳細なサービス内容についてどのように実施されたのかを、毎週達成度チェックを行っている。その際には、サービス内容の一つ一つ見るため、職員は介護計画を意識することができ、日々の介護記録にも反映している。事業所の法人は医療法人であり、終末期については希望があれば、事業所で看取りもできることを入居時に家族に説明している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつも見られるところに掲げ、意識し、職員間で共有している。	職員は、毎月の会議で理念を意識し、日々のケアに反映できているかを確認しているが、法人理念から法人のグループホーム共通の理念・事業所の理念といった一連の流れが曖昧で、職員が理念内容を咀嚼して共有するまでに至っていない。	事業所は地域密着型サービス事業者であり、日々のケアの根幹が理念であることを職員全員で共有・認識する機会を改めて設け、理念の一連の流れがケアの実践と結びつくよう努力されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さんが、広報を届けて下さるので地域の情報を得て、地元、神社のお祭りや地域の夏祭りに参加している。ホームのまつりや行事など、ご近所の方に参加のご案内を配布し地域との交流の機会を作っている。	開設当初から区長や民生委員宅へ出向き、事業所概要を説明し、理解してもらえよう努力した結果、地域のお祭りやホームの行事に参加してもらえ、運営推進会議でも意見を出してもらえ間柄になった。認知症に関する講演も依頼されるといった成果があり、円滑な交流ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について、地域から依頼を受け、認知症についての講演会など実地している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、行事や日常生活について報告をしている。行事に参加をして頂き感想やご意見を伺い、ホームの活力に生かしている。	利用者の様子を知ってもらおうと会議メンバーに祭りや避難訓練等の行事に参加していただいた後に、会議を開催している。会議参加のメンバーが少なく、固定的である。区長・民生委員・家族代表から避難時の工夫点や家族間の交流についての意見が出され、ホームの運営に活かしている。	参加家族以外からの意見の聴取や会議内容の周知を図り、近隣住民などの参加も促し、幅広い意見を出してもらい、事業所理解と会議内容が活発になるよう努力することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことがあったときは、相談させていただき関係を築くようにしている。	行政へは事業所行事の案内を直接持参したり、独居利用者の自宅郵便物の回収や、他市への住所変更で入居継続困難な利用者の事例を行政間で協議してもらうなど、細やかな対応で協力してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室やホールからはいつでも外へ出られ自由にウッドデッキで散歩されている。ご家族から、車椅子にベルトを付けて欲しいとの依頼があるが身体拘束をしない介護について説明し、ご理解を頂いている。	転倒しやすい利用者や、家族や医師から抑制の提案があったが、観察や見守りを強化することで拘束することなく現在に至っている。居室やホールから自由にウッドデッキに出ることができるが、玄関の出入りは暗証番号操作での構造になっており、利用者が解錠することは困難である。	現在の利用者の状態から扉の開閉に施錠が必要なのか、施錠をすることは利用者・職員にどのような心理面・介護面の影響があるのか、もう一度検討し、施錠をしないケアが実施できるよう努力されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で、虐待についての話をしているなかで、言葉の使い方・無視をすることで介護放棄につながるなど、いろいろな意見が出され職員の間で意識付けを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性は感じているが、学ぶ機会が持てない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず面談を行い、ご家族の不安や疑問にお答えするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族面談を行い利用さんの現状報告とご家族のご意見を伺っている。行事にご家族参加して頂くと運営推進会議を行い、意見交換の場を設けている。	家族の面会時以外にも年に一度家族面談を行い、利用者の状況説明や生活についての要望等を聞いている。また、サービスや接遇についてアンケートをとっている。運営推進会議でも事業所の運営について多くの意見をもらい活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議を開き、職員と意見交換を行っている。また、職員はグループホーム内での各委員会に参加し情報交換を行いホームに伝え支援に繋げている。	職員会議で、ケアプランについてのカンファレンス、法人内の教育委員会やサービス向上委員会の報告や意見交換、また業務内容や行事の開催方法について話し合っている。現在は、管理者の異動直後で実施していないが、法人内の事業所で行っている年に3回の職員面談を今後行う予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望公休や本人の事情での有給など同業者に負担にならない程度に取っている。定時間に帰れりように職員同士協力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	受ける機会があれば参加するように進め支援に生かしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列施設間の交流はしているが、法人外での交流の機会は持てない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際、ご家族の聞き取り調査を活用しながら状態を把握し安心して生活が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際、ご家族と面談を行うようにし、サービスの導入の前には、ご家族からの要望を伺い、ご希望に沿うよう努めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族から小さなことでも情報を頂き支援を把握し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活のなかで、洗濯たたみやキッチンのお手伝いなどお願いをして、利用者さんと職員との関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時は、些細なことでも報告し会話をしている。本人とご家族とお茶を用意して時間を過ごしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	区長さんや民生委員の方より情報を頂き区の夏祭りや神社のお祭りに行き関係作りをしている。	利用者の夫が入院中で心配されているため、職員とお見舞いでかけたり、利用者の親族が経営している軽食店に外出の際お連れして、家族・親戚と過ごす時間を作ったりといった利用者の自然な訴えに細やかに対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ラジオ体操・制作作り・洗濯たたみなど始める前に声を掛け出来る方はして頂き出来ない方はそばに居て頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な範囲で相談・支援に努めていきたいと思っている。入院での退所された方が退院後このホームに戻りたいの相談を受け支援を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に話がうかがえる時には何うようにし、お話が伺えない場合については、毎日の観察のなかで検討し職員会議で本人らしさを引き出せるように話合っている。	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。認知症状の進行により、その方の本来の希望・意向が表出しづらい方には、様々な行動の様子を捉えて、その背景にあるものを推察し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	わずかなことでも、ご家族の方に聞き取り情報を得て、把握に努めている。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表を元に、小さな変化にも気付き日常生活や、身体状況に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が、モニタリングを行い、ユニット会議で話し合う事で幅広く意見が聞かれ支援の工夫に生かしている。	職員は、課題から引き出された詳細なサービス内容の達成度チェックを、毎週1回行っている。その際、計画内容を一つ一つ見るため、計画を意識することができ、日々の記録でも繋がりがやすくなっている。さらに、担当職員は月に1回、モニタリングを行い、職員会議で話し合い、新たな課題の発生の有無等を確認し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア実施記録を使用し、チェックをしている。気づいたことは、記録しモニタリングを行い、ホーム会議で情報を共有し実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活のなかで、身体や表情の変化について、どんなに小さなこともご家族に報告を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々に合った支援を行い力を発揮できるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの属託医がかかりつけになっている。往診日に、本人やご家族が聞きたいことや職員が、気付いたことを伝えている。不安の時は、電話で聞くようにしている。	利用者は事業所の協力医をかかりつけ医としており、月に2回の訪問診療で医療面の支援を受けている。また、体調変化時の相談は訪問看護師に逐次相談でき、医師とも連絡できる体制としている。結果は管理者から家族に報告されるが、場合によっては医師が直接家族に連絡する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が来ているので利用者さんについて連絡表に記入しておき健康管理の助言をもらっている。また急な体調変化の時は、連絡し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、面会に伺い担当看護師より状態を聞き可能であればご家族と共に医師の話を一緒に伺うようにし、相談員と連絡を取り早期の退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族面談を行い終末期についての意向をお伺いしている。終末期に向けてホームとして出来ること、ご家族の意思や不安などを、医師や訪問看護師に伝達し、本人が望むケアに繋げていけるように努力していく。	事業所では看取りの支援体制ができており、入居時に家族に説明している。終末期に向けて家族の意向についても段階的に話しあう機会を設け、方針を共有し、家族・事業所・看護師・医師といったチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム内の勉強会に年1回消防署の出前講座に参加をした。訓練を重ね実践力に繋げていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。昼間の体制と夜間の体制で訓練を行っている。地域の協力体制の構築について、運営推進会議出席の地域代表やご家族の方に避難訓練を体験して頂き、地域のご協力を呼びかけお願いをしている。	年2回の避難訓練では、消防署の立ち会いで、夜間も想定した訓練を行った。運営推進会議も同時開催し、参加者にも体験してもらうなど、地域や家族の協力もお願いしている。来年度は地域防災拠点を目指し、赤十字の炊き出し訓練を実施する予定があり、高い防災意識を持つよう努めている。	利用者の介護度が高く、車いす移動の方が多い。その点を意識した訓練の実施やごく近隣の住民以外にも事業所の現在の様子を知ってもらった上で協力を仰ぐなど、さらなる防災対策に取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「～さん」とゆっくり丁寧な言葉で対応している。	特に、排泄介助に携わる際や入浴介助の時は、利用者への声かけの大きさ・タイミング・距離間に注意している。肌や陰部の露出がなるべく少なくなるよう配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしますか?」「どっちがいいですか?」など、声かけの工夫を行う事で、できるだけ自己選択できる機会を作るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望された時に散歩に行ってもらったりテレビを見てすごしたり一人ひとりのペースで生活をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など、選べない方はこちらで用意し選んでいただく支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは、野菜の皮むきのお手伝いをして頂き、後片付けは、お皿拭きをお願いしている。	朝食は職員が作り、昼食はシルバー人材センターの方による調理、夕食は食材カット済みを提供してもらい調理している。利用者の好みも聞きつつ家庭料理中心の献立で、職員も利用者と一緒に交代で食べている。また、正月やお彼岸には、季節にあった料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた支援を行っている。一日を通じて栄養バランスや水分量が確保できるよう個々に応じてミキサー食・トロミ・刻み食などにして工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。できる方は自分で磨いていただいているが、できない方は職員が介助し行い、口腔内の清潔の維持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人排泄状況を記入している。排泄パターンが把握出来個々に合わせた排泄の援助ができるよう工夫をしている。	定時のトイレ誘導を行いながらも、24時間の排泄・排尿チェックを行い、排尿量なども勘案して排泄間隔を捉えて支援している。介護度も高くオムツ使用の利用者も多いが、少しでも立位のとれる方には便座に座ってもらい、排便を促すよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに取って頂いたり、ヤクルトや牛乳などを飲んで頂いている。個々に応じて腹圧マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室に案内する直前に声掛けし、本人のタイミングを見ながら入浴して頂いている。	入浴は、着脱から入浴までゆっくり時間をかけて入ることができるようにし、週に2～3回入っていただけるよう支援している。熱め・ぬるめの湯といった好みも把握して、準備している。入浴を拒否される方には、その日の気持ちの動きも見極めて声をかけ、入っていただいている。また、浴室がウッドデッキと段差なく繋がっており、暑い時期はガラス戸を開けて露天で入浴するような状態で入ることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活のなかで、身体や表情の変化について、どんなに小さなこともご家族に報告を行っている。生活習慣を把握しその人に応じた支援を行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容について、個人記録にファイルし、いつでも確認できるようにしている。症状の変化にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんに合わせた楽しみが持てるよう支援をさせて頂いている。(歌・散歩・洗濯たたみなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの周りまたはウッドデッキを散歩して頂いている。地域行事に声を掛けて頂き外出したり、季節の花を見に出かけたりと楽しんでいた。	季節の良い時期は、花見などの外出や外食、地域の祭りに出向いている。また、法人全体の事業所でバス旅行を企画し、サファリパークへ出かける利用者もいた。外気の暑い・寒い時期は、事業所を囲む広いウッドデッキで外気浴をしたり、散歩をしたりしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いをお預かりし、希望でお菓子・ヤクルトや日常品を買っている。必要に応じて使用していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしていただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるような室内飾りをし、季節の移り変わりを楽しんでいた。また、温度や湿度に気を配り、居心地よく生活していただけるような環境作りを行っている。	事業所の建物周囲はウッドデッキで囲まれており、南面の各居室や居間の掃き出し窓から外へ出ることができる。そのため光彩も多く入り、明るい室内となっている。また外出時や行事の様子の写真が飾られ、普段の様子が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で本やアルバムを見たりタンスの整理されたりされる方やホールでテレビを見たり日向ぼっこされる方、自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを置いたり、ご家族の写真や自分の居室がゆったり出来る場所と感じて頂けるように工夫をしている。	建物周囲はウッドデッキで囲まれており、各居室にはすべて掃き出し窓があり、開放感が感じられる。備え付けの整理ダンスとベッドの他に、家族の写真やカセットデッキ・人形を飾るなど本人の好みのものを配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方が多いため机やソファの配置に気を付けている。		